

めくる、めぐる、富山な暮らし

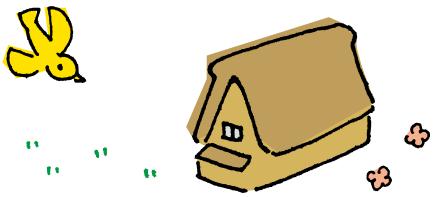
とやま日季

につき

2011 春号

くらしたい国・富山

世界遺産の、うれしい春。



世界遺産「相倉(あいのくら)合掌造り集落」に訪れる、待ちわびた春。4月下旬、集落に賑やかな祭り囃子が響き、勇壮な獅子舞が披露されます。やがて山々は、鮮やかな新緑に。

そして、5月下旬が田植えシーズン。田植え前の田んぼでは、冷たい雪解け水が張られます。水田に映る「逆さ合掌」や、夜にライトアップされる風景も春の名物。日本の原風景を満喫できる、世界遺産のうれしい春です。

16	いいモノ、いいコト。 とやまのチユーリップ	東京で、富山に逢える。富山県フェア in 丸の内ハウス(仮称) きときと富山観光・物産キヤンペーン 地方自治法施行60周年記念貨幣発行	15	このまちに住みたい。高岡市	とやまストリーム	開町400年の金屋町 鎌物の聖地に吹く、あたらしい風。
14	3 おいしい暮らし とやまカルチャー	8 とやま暮らし日季	4 富山対談	16	4 富山対談	JOC副会長 富山県スポーツアドバイザー 福田富昭 × 富山県知事 石井隆一
13	案内する人 小西謙造さん	15 とやまブランド、11品目を認定。	14 とやま暮らし日季	13 おいしい暮らし とやまカルチャー	13 おいしい暮らし とやまカルチャー	世界遺産の、うれしい春。
12	富山県中央植物園	16 とやまのチユーリップ	15 このまちに住みたい。高岡市	14 とやまストリーム	14 とやま暮らし日季	世界遺産の、うれしい春。

とやまカルチャー

多種多様なサクラを、愛でる春。

日本海側初の総合植物園として開園した富山県中央植物園。25haの敷地では、4,700種類の日本や世界の植物が楽しめます。4月上旬には約90本のソメイヨシノが一斉に咲き揃い、華麗な花のトンネルをつくります。夜にはライトアップされ、昼間と合わせて見頃の4日間は無料開園となり多くの人で賑わいます。4月中旬から下旬までは黄色いサクラ「ウコン」や、八重咲きのサトザクラなど、合計約100種類360本の多種多様なサクラが楽しめます。



富山県中央植物園
富山市婦中町上轡田42 Tel.076-466-4187
開園:午前9時～午後5時(入園は午後4時30分まで)
休園日:毎週木曜日(4月および木曜日が祝日の場合は開園)、年末年始。
<http://www.bgtym.org/>



季節ごとの企画展や講座で、
楽しみながら植物を学ぼう。

日本の森林の再現や世界の珍しい植物を展示。
ランや熱帯植物の温室のほか、雲南省の植物展示は日本一の規模。季節ごとの企画展や講座で、楽しみながら植物について学びませんか。

おいしい暮らし



案内する人
小西 謙造 さん



「桜鯛の白エビムース詰め“赤むすび”のリゾット添え」。春を告げる富山湾の桜鯛や白エビ、そして、赤むすびには抗酸化作用の高い「富山赤71号」を使用。

富山の食材が、語りかけてくるようです。

昭和の初めから両親が、現在地にありました洋食店の他に、夏の間だけ岩瀬浜で浜茶屋を経営していて、夏はずーっと浜の店で過ごしました。獲れたての魚の美味しさは物心つく前から刷り込まれています。その頃はキス釣りの餌に白エビを使つていましたね。

釣り針に白く透き通つた身を通して、余つた身は自分の口に含む。キスも私もどつちも釣られているようなものです。今思うと贅沢なものです。親父が神田生まれの江戸っ子で西洋料理のコツでしたから、工夫してカレーうどんなどもメニューにありました。海で冷えた身体に熱々のカレーうどんの美味しさは忘れられません。

浜近くの野菜畑の真っ赤なトマト、キュウリ、黄色いマクワウリ（マツカ）の甘さ、今でも思い出します。その頃に私の味覚が形成されたようです。

フランス料理の研修を兼ね30年余り毎年フランスへ行きました。列車を乗り継いだり、レンタカーを運転してフランス全土を駆け回りました。

海沿いの町、内陸の町、ブドウ畑、野菜畑。狩猟のシーズンになると毛皮の着いたままのジビエ（狩猟で獲る野獣）がぶら下がっている市場（マルシェ）を

訪ねました。イタリア、スペイン、ドイツにも足を伸ばしました。

全日本司厨士協会（西洋料理シェフ

の協会）の世界連盟から任命され国際料理審査員として、ロシア、スリランカ

へも出かけましたが、そのたびに富山

の豊かさを再認識。海の幸、山の幸が四季折々豊富にあり、水が良く、米が美味しい。富山県民にはあまりに当たり前にすぎて、どれくらい贅沢なことか、分かつていかないかもしれません。

白エビ、天然岩ガキ、ブリ、ズワイガニ、饅頭ガニ、真鰐の白子、氷見牛、カブ、リンゴなど。食材が私に語りかけ、インスピレーションが湧きます。42年間料理を作つてこられたのも、優れた食材があつたから。もつと美味しい料理が作れそうで、わくわくします。世界のどこよりも魅力のある富山。ゆつたりと流れる時間や人情も、財産です。



小西謙造 こにし・けんぞう

富山のフレンチレストランの草分けである、レストラン小西オーナーシェフ。全日本司厨士協会富山県本部会長。<http://www.restaurantkonishi.com/>

レスリング選手として世界で活躍し、現在は、JOC副会長や富山県スポーツアドバイザーとして未来のトップアスリートの育成に情熱を傾ける福田富昭氏。石井隆一富山県知事とともに富山県のこれからスポーツ振興と地域づくりについて語り合いました。



あしたへ、つなぐ 富山対談

JOC副会長

富山県スポーツアドバイザー

福田富昭



富山県知事

石井 隆一



日本のスポーツ界の 未来のために

石井 福田副会長は、日本レスリング協会の会長やJOC副会長などとして、日本のスポーツ界を代表するご活動をされています。また、一昨年からは富山県のスポーツアドバイザーにご就任いただくとともに、「トップアスリー

の、「勝負に情は無用」「自信を持ち、自分で自分の勝負哲学を持つ」ということ、そして「心では絶対に後に下がらない、必ず勝つ」という、「自分の自信」というものが、勝負の決め手になつたと思ひます。

ト育成・強化プロジェクト会議」のアドバイザーとして、大変立派な報告をまとめていただき、有難く思います。

現役時代は、レスリングの全日本選手権や世界選手権で優勝されるなど、数々の輝かしい実績を残しておられますが、当時、試合に臨まれたお気持ちなどについてお聞かせ下さい。

手団の総監督や団長を務めておられます。こうした重責を担われた際にはプレッシンジャーも大きいように思いますが。

福田 まずは、日本選手団という日本のスポーツ界を代表する監督、コーチ、選手を預かっていますので、全員が無事故で、健全にオリンピックを乗

り切る事ができるよう、祈るような気持ちでいました。次に、「一人ではなく、チームジャパンとして、日本選手団全員が一丸となつて戦う」ということで、みんなでお互いの心境を話し合い、励まし合いながら「勝つぞ日本!!」といふ気持ちへと高めて戦い、成果を上げることを目指しました。

内外の多くの方々から高いご評価をいただけたようで、有難く思います。今後とも、富山県のスポーツ振興、特に競技力の向上をはかつていくための方策について、ぜひ、アドバイスを

福田 「元気とやま」を創造する施策



スポーツはやはり、県民を元気にする一つの材料であり、大きな力があります。田畠、穂積選手は県民に大きなインパクトを与えて元気をくれ、一体感を感じさせてくれました。レスリングのユース五輪で金メダルを獲得した宮原優選手、あるいは県の国体選手やインターハイの選手が全国的なレベルの成績を残しているのも、施策の効果だと思います。

子どもたちが遊びながら体を作つて
いつて、スポーツを始めるのがいいで
すね。その中から、素質のある選手を
見つけて、育てていくことだと思います。
早い時期に可能性のある子どもを
見つけ、育て、将来は指導者として生か
していくこと。これをスポーツ一貫教
育、一貫指導と私たちには言っています。

石井 昨年3月に、富山県では、オリ
ンピック銀メダルの田畠、穂積両選手

田畠、穂積選手ほか、
富山県選手が大活躍

石井 うれしいことに、昨年、富山県の企業に所属する田畠真紀、穂積雅子両選手がバンクーバーオリンピックで銀メダルを獲得しました。高校総体や国体、さらにアジア大会でも、本県の選手が大活躍してくれました。

のなかで、産業や経済などと共に、スポーツを取り上げていただいたということは非常にうれしいですね。多くの選手がいい成績を残しているということとは、知事のスポーツ政策の成果が着実に出来始めているということではな
いでしょうか。

少子化の時代になり、お子さんにはスポーツよりもまず勉強からというご家庭が多い。ですが、勉強からスタートすると、後でスポーツに切り替えるのはなかなか難しいものなんですね。逆にスポーツからスタートしたお子さんは、途中で勉強に切り替えるのは意外と簡単で、勉強でも力が出せます。やはりスポーツによって、心身ともに鍛えられるということですよね。

それと、小さい時から外で遊ぶということも大事。その点、富山県はすばらしい自然環境に恵まれています。

どもから大人まで3000人以上の方々が集まつていました。すると、2人の選手が、屋根付きの車では集まつて下さった方々に親しく挨拶できな
いから、祝賀会場まで歩いて行きますと言つてくれたんです。その両選手の
気持ちにも感動しましたし、沿道で2人の選手に握手を求めるお子さんや、
サインをもらう人などの姿を見て、ス
ポーツで懸命に努力し素晴らしい成
果を出すことがいかに人を感動させ、
勇気と元気をもたらすかを、強く実感
しました。

と言つてくれたんです。その両選手の気持ちにも感動しましたし、沿道で2人の選手に握手を求めるお子さんや、スaineをもらう人などの姿を見て、スポーツで懸命に努力し素晴らしい成果を出すことがいかに人を感動させ、勇気と元気をもたらすかを、強く実感しました。



福田富昭

ふくだ・とみあき／JOC副会長、富山県スポーツアドバイザー
富山県滑川市出身。日本レスリング協会会长、2004年アテネ
オリンピック日本代表選手団総監督、08年北京オリンピック
日本代表選手団団長、ナショナルトレーニングセンター
委員会委員長、09年富山県スポーツアドバイザーに就任。

うと、小学校5年生を対象にした「未来のアスリート育成事業」を始めました。今年で6年経ちましたが、いま高校総体などで活躍している選手の中には、その一期生の子たちが多いんですね。これからも、育成事業をさらに充実させたいと思っています。

精進、努力の積み重ねで輝かしい成果を出すと、県民、とくに若い人にいい影響と刺激を与える、頑張ろうという気など、才能ある選手が血の滲むような

福田 ハート面でも富山県にはたくさん
さんの施設があります。なかでも富山
県総合体育センターは本当に素晴らしい
しく、今後の富山県の指導者や選手の
育成の中心になる場所です。ほかに
も、富山県にはまだまだ活用できる場

また、子どもが勉強から入るとスポーツに切り替えるのは難しいが、逆にスポーツから入ると、途中で勉強に切り替えやすいと、いうお話は、とても説得力を感じます。

そろそろ本気で勉強もしたらという意味だったのではないかと思い当たった。もちろんその後もスポーツはやりましたが、おっしゃるように、その逆はなかなか難しいということはあるかも知れませんね。

私は小学校4年生までは草野球少

子どもの可能性を 伸ばしたい

と見つめて、「日焼けで真っ黒になつたね。こんな子を産んだ覚えはないぢや」と言つたので、アツハツハと一
緒に大笑いしました。それから、しばら
らくして、あれは高校受験も近いし、

石井 先程、スポーツに才能のある子を早く見つけて、育てることが大事だとおっしゃいました。知事に就任した翌年の平成17年から、才能ある子どもたちを発掘してその可能性を伸ばそ

私は国でも、厳しい財政のなかでスポーツに予算をかけるには、活火山方式がいいと提言しています。幼稚園、小学校、中学、高校、大学とそれを育てていくと莫大なお金と時間がかかるわけですね。しかし、才能のあるトップを強くして世界で勝てば、火山のように爆発する。すると、溶岩が流れるように裾野が広がり、ほかにもやりたいという人がたくさん出てくるわけです。

として有効活用します。強化指定選手のスポーツ医・科学的サポートの拡充のため、トレーニング指導員の増員や機器の充実を図ることとしました。

福田 私は東京都北区にある、日本のナショナルトレーニングセンターの委員長をしていますから、こことも何らかの形で提携し、例えば、ナルチームが体育館が満員で練習できない場合などに富山へ来るのもい

石井 確かに、田畑、穂積両選手の銀メダルの影響は大きいと実感しますね。ユースオリンピックのレスリング優勝の宮原選手やアジア大会のカヌー三種目で金、銀、銅メダルの北本選手

いですね。オリンピックチームが富山に来れば、非常に刺激になると思います。

を富山で行い、上市町の大岩山日石寺の滝で、選手やコーチ全員が精神修行をしました。その様子は、全国ニュースでもいい刺激と宣伝になつたと思つています。

大成功を収めた
スポーツレクにつづ
生涯スポーツ振



石井 昨年の全国スポーツ・レクリエーション祭は応援の方も含めると、参加者数が21万3000人に達しました。多くの県民の皆さんに喜んでいたことにはもちろん、県外から参加された多くの方々から、「開会式を

A portrait of Shunichi Tanaka, a man with a warm smile, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is gesturing with his hands while speaking.

石井隆一

いしい・たかかず／富山県知事

東京大学法学部卒。石川県、北九州市、静岡県などを経て、地方分権推進委員会次長、総務省自治税務局長、消防庁長官などを歴任。平成16年より現職。平成15年から18年まで早稲田大学大学院客員教授。主著に『分権型社会の創造』など。

はじめ運営が素晴らしかった」、「富山県の人は温かくて親切だ」、「また、来

涯スポーツやレクリエーション活動を充実していきたい。

福田 トップスポーツと生涯スポーツは、スポーツの両輪です。地域のさまざまなスポーツクラブから素質のある人が出て、トップへ行くというケースはとても多い。例えば、水泳の北島康介選手がそうですね。ですから、生涯スポーツ振興に力を入れることは、

富山県が将来、スポーツ政策で成功する大きな要因になると思います。

るのはとても大変なことです。県民みんなで選手を応援しようということです、「富山県民スポーツ応援団」をスタートさせました。半年で1000万円くらいの募金が集まっています。

また、富山県には、J2のカターレ
富山、プロ野球BCリーグの富山サン
ダーバーズ、男子プロバスケットボーン
ル・b・jリーグの富山グラウジーズ
と、3つのプロチームも揃つていま
す。大都市地域でない地方では全国唯
一だとのことです。富山県では、これ

を子どもたちの健全育成と地域活性化に活かそうと、プロの選手から直接

を子どもたちの健全育成と地域活性化に活かそうと、プロの選手から直接

福田　夢づくりスポーツ塾」を昨春から開催しています。サッカーでは、県下20校で27回、約1500人の子どもたちが参加しました。プロに教わるとなると、子どもたちの目の輝きが違います。

石井 富山県が、トップアスリートの育成や地域の生涯スポーツでも、全国のモデルとなるように今後も努力していく。人を元気にするためには、経済も大事ですが、同時に、心と身体の元気が大事です。そのためにも、文化振興とあわせて、スポーツの振興は是非とも必要なことだと思つていま

す。23年度には「元気とやまスポーツ懇話会」を開催して、今後10年先を見据えた本県のスポーツ振興のあり方について大所高所から検討していただきたいと考えています。今後ともアドバイスを、よろしくお願ひいたします。

100

開町400年の金屋町

鋳物の聖地に吹く、
あたらしい風。

金属工芸作家／高岡市在住 槻間秀人さん





右上:オープン時の「かんか」設立メンバーや支援者たち。貸しギャラリーとしても様々な作品を展示。その他:風情あふれる金屋町の町並み。

**金屋町という磁場が、
ものづくりへの思いが、
若者たちを熱くする。**

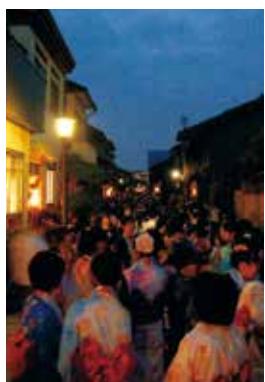
富山県西部に位置する高岡市金屋町（かなやまち）。今年で開町400年となる高岡銅器発祥の地です。高岡は日本最大の銅器生産地。「高岡銅器」のブランド名で全国に知られています。

その歴史ある铸物のまちに、新しい風を吹き込んでいるのが、2010年9月にオープンした金屋町金属工芸工房かんか（堀堀）です。「かんか」は若手金作家たちが運営する工房兼ギャラリー。「かんか」とは金属を溶かす堀堀（るつぼ）のこと。金属が溶け合うようにいろんな人たちが集い、新しいものごとを生み出す、そんな空間を目指して名づけられました。建物は旧高岡映画資料館を改装したもので、ノスタルジックで温かな印象の佇まいです。

設立メンバーは20代、30代を中心とした約15名。金属工芸に情熱を傾ける多くの人は、「かんか」代表で高岡市在住の金属工芸作家の榎間秀人（つきまひ

でと）さんの教え子でもあります。榎間さんは北海道出身。金沢美術工芸大学で铸金を学び、卒業後は金屋町の铸物会社に就職。独立後、約30年にわたりて铸物づくりに携わってきました。高岡市伝統工芸産業技術者養成スクールの講師や金沢美術工芸大学の非常勤講師も務めています。榎間さんのもとに集まつた、ものづくりに純粹に取り組む若者たちが、今回の「かんか」の立ち上げに動きました。

「火を使い、いくつもの工程を経て完成する金属工芸品。場所や道具、資金面からも、若手作家が工房を持つことはとても困難」と話す榎間さん。メンバーは、榎間さんが「铸物の聖地」と呼ぶ金屋町で、新たな創造と発表の場をつくりたいと結集。その熱い思いを金屋町の人たちが温かく受け入れ、「かんか」が生まれ出されたのです。



毎年6月19・20日の御印祭は、
铸物師たちの大好きなお祭り。



右:写真左から「かんか」設立メンバーの横田安通子さん、小畠公未子さん、平戸香菜さん、青木有理子さん、代表の槐間秀人さん。制作や運営について語り合う。

左:「かんか」の工房で、型に錫を流し込む「鋳込み」を行う槐間さん。工房では鋳物の制作風景を見学することもできる。今後はワークショップなども開催予定。

金屋町金属工芸工房かんか(堺堀)

富山県高岡市金屋町5-15(旧高岡映画資料館)

TEL・FAX.0766-25-8550

OPEN:金・土・日・月 10:00~18:00

<http://kanaya-kanka.cocolog-nifty.com>

槐間秀人

つきま・ひでと／高岡市在住

北海道生まれの金属工芸作家。1978年、金

沢美術工芸大学卒業。工房think代表。日本

現代工芸美術展現代工芸会員賞受賞。高岡

市金屋町金属工芸工房かんか(堺堀)代表。



山梨学院大学モニュメントなど、槐間さんの作品。特に、屋内外の大型モニュメント制作を得意としている。「鋳物制作のプロセスは、人生を語るくらいの厚みがあり、観光や教育の資源としても可能性がある」と語る。(写真左:三沢庸平撮影)

歴史あるまちで、
人とかかわり、
手仕事を極める。

可能性に満ちた創造の場「かんか」。
設立メンバーの横田安通子(あつこ)さんは高岡市出身。「一人ではできないことも、「かんか」なら挑戦していけます」。県外出身者が多いメンバーと地域の人々をつなぐ橋渡し役となっています。

「いろんな人と情報交換し、次につなげていきたい」と話すのは、大阪府出身の小畠公未子さん。茨城県出身の平戸

香菜さんは「変化しつづける金属という素材の一瞬の美を発見したい」と、日々素材に真摯に向き合っています。

青木有理子さんは富山市出身。背中

に苔をはやしたブロンズ作品「はりねずみ」の作者です。「もっと金属を勉強したい」と高岡に引っ越し、活動中です。

メンバーは自治会や地域の祭りにも参加し、積極的にまちづくりにかかわっています。槐間さんは「様々な方が工房を訪ねて来られ、金屋町の方もメンバーを自分の子どものように思つて下さっている」と、喜びを語ります。



重要文化財の紙本金地著色洛中洛外図(六曲一双屏風)の複製を展示。



大修復が行われた勝興寺の本堂や唐門は、国の重要文化財に指定されていて、見事なケヤキの木組みや彫刻は、大胆さと繊細な技に驚く。



重要文化財 雲龍山 勝興寺
富山県高岡市伏木古国府17番1号
TEL.0766-44-0037
<http://www.shoukouji.jp/>



旧南部鋳造所のキュポラと煙突は、国の登録有形文化財。



築200年の町家の、中庭をのぞむ蔵の内流の茶室がある、大寺幸八郎商店。ベンガラの壁、数寄屋天井も見事な造り。詳細は次ページ。



有磯造り「八棟造り」の躍動感あふれる銅板葺きの屋根が特徴。拝殿両脇には、昭和10年に日本画家・塩崎逸陵より奉納された春秋を描いた障子がある。

有磯正八幡宮 富山県高岡市横田町3丁目1番1号 TEL.0766-22-0334

大学や講座で多くの人に教えてきた
榎間さんは、高岡市伏木の高台にある
「かたかご幼稚園」でも講師を務めています。「山に海に、起伏に富んだ伏木が
好き」と話す榎間さん。幼稚園のすぐそ
ばには重要文化財の勝興寺があり、子
どもたちと境内を見学に行ったり、落
ち葉を拾いに行く事もあるそうです。
また、金屋町の氏神様、石凝姥命（い
しこりどめのみこと）が祀られている
のが有磯正八幡宮（ありそじょうはち
まんぐう）。金屋町の鋳物職人たちの信
仰を集め、見事な社殿や拝殿は国の登
録有形文化財に指定されています。

6月の御印祭の祭礼や、鋳物の無事
故と商売繁盛を祈る11月8日のふいご
祭りなど、いまも鋳物に携わる人達に
とつて、とても大切な場所です。



「神社の神輿の装飾金物も、七宝や象
眼など金工技術の粹が集められ、見事
なもので。手仕事の鏡として、どれだけ
の覚悟と精神力で仕事にあたつてい
るのかと、時を超えて私たちに訴えか
けてくるものがありますね」
そのほかにも、築百年以上の町屋、鋳
物工場の跡地、キュポラのある風景な
ど、金屋町周辺には鋳物づくりの大切
な歴史遺産が数多く残っています。

铸物のまちは、
職人の誇りと、
美意識に磨かれて。



铸造、仕上げ、彫金、着色など、各工程の職人の技の連携があつてこそ、高岡銅器の美しさは生まれる。伝統と誇りを胸に、職人たちはとことん品質にこだわる。

●お問い合わせ:高岡銅器協同組合 富山県高岡市開発本町1-1 (財団法人高岡地域地場産業センター内) TEL.0766-23-8210
<http://www.doukikumiai.com/index.html>

匠の技を礎に、
新たなものづくりへ。

400年の歴史を刻む高岡銅器。高岡銅器協同組合理事長の駒澤義則さんは、「着色」とは単なる塗装ではなく、熟練の職人が、铸物生地の表面を、古くから伝わるさまざまな薬品を使い腐食させたもの。これによつて、鮮やかな色彩を引き出すことができるんです」。

「着色」とは単なる塗装ではなく、熟練の職人が、铸物生地の表面を、古くから伝わるさまざまな薬品を使い腐食させたもの。これによつて、鮮やかな色彩を引き出すことができるんです」。

例えば溶液で煮るのが「煮色」。金属の表面を鏡面研磨して薬品で煮込むと、奥行きがでてくると言います。古銅色、煮色、青銅色、焼朱銅色など、商品や用途によつて使い分けられ、受け継がれてきた匠の技があります。

高岡銅器は富山県が新たに創設した「富山県推奨とやまブランド」に認定されたほか、国のJAPANブランド育成支援事業にも採択され、時代のニーズに合つた、新たなものづくりが始まっています。今後、国内をはじめ海外への挑戦にも、期待が高まります。



●お問い合わせ:大寺幸八郎商店 富山県高岡市金屋町6-9 TEL.0766-25-1911 営業時間:9:00~17:00 定休日:毎週木曜日
<http://ootera.com/>

築200年の町家って、 こんなにも、洗練されている。

金屋町を散策して、一服したいときにぴったりなのが慶応3年創業の大寺幸八郎商店。築200年の店内では、店主の大寺雅子さんらが温かく迎えてくれます。铸物製品やアンティーク、アクセサリーなどが数多く揃うほか、カフェで、お茶やコーヒーを楽しむのも格別です。



●お問い合わせ:高岡市铸物資料館 富山県高岡市金屋町1-5 TEL・FAX.0766-28-6088 開館時間:9:00~16:30 休館日:毎週火曜日(火曜が祝日の場合その翌日)、年末年始。 <http://www.city.takaoka.toyama.jp/siggs/html/imono/index.html>

職人の心意気を、 肌で感じてほしいから。

伝統と風格のある千本格子の町家が軒を連ねる金屋町。その一角に、町家の一部を改装した高岡市铸物資料館があります。今年、同館が所蔵する製作用具や製品は、富山県内初の有形民俗文化財に登録されました。铸物の歴史を間近で見て、職人の心を肌で感じてみませんか。

高岡スローライフ

玄関から長くつづく土間には台所があり、奥には蔵が2つ。昔は、さらにその奥に鋳物の作業場があり、蔵が防火の役目を果たした。



金屋町に住む人は、
いまも、美意識にあふれていました。

時をさかのぼったような風情を漂わせる金屋町。由緒ある職人のまちとしての誇りと美意識が、いまも静かに息づいています。「小泉邸」は築約90年の町家を修復。普段は一般公開されていませんが、秋に開催される金屋楽市では、アート作品が美しくしつらえられます。



左: 使用人のための風呂場。
右: 幾重もの扉で火災から守る重厚な蔵。鋳物屋を営み栄えた家では、90年前当時の最先端の設備が目を引く。



豊かな自然風土に恵まれた富山県では、たくさんの名品や独自の技術が生まれています。富山県では、魅力あふれる富山県産品のなかでも、とくに優れた品を選びすぐり、今回、認定第1号となる「富山県推奨とやまブランド」を発表しました。

今回選ばれた「とやまブランド」は、農林水産分野7品目、ものづくり分野4品目の、合わせて11品目、48事業者で、先頃、認定証交付式が行われました。

となみ野農業協同組合の中居安治さんは、「伝統を守りながら大門素麺のあたらしい食べ方を提案したい」。パロ開発者の柴田崇徳さんは、「富山の技術や伝統文化が結集した工芸品としてのปากを通して、世界の人が富山に興味を持ち、足を運んでもらえたら」などと、抱負を語っていました。

いざれも富山の豊かな歴史や文化、人のたゆみない努力のなかで育まれた品ばかり。今後、パンフレットや雑誌広告などで、とやまブランドの魅力とともに富山県の地域イメージを、広く発信していきます。また、このほかに「とやまブランド」の認定を目指す取り組みを支援する「明日のとやまブランド」育成支援事業の対象として、6品目が選ばされました。

とやまストリーム

とやまブランド、 11品目を認定。

国内外に富山県の魅力を発信する、「富山県推奨とやまブランド」。

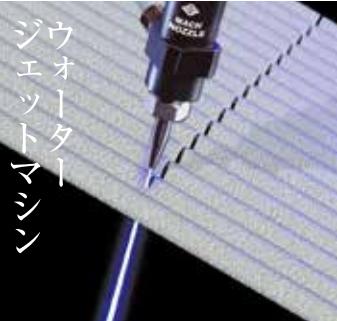
「富山県推奨とやまブランド」ブランドマーク

富山県では、認定品目の知名度向上と販路拡大を図るため、ブランドマークを制作しました。

世界有数の景色一海越しに浮かぶように見える3,000メートル級の山々。富山県のシンボル的な存在である立山連峰、藍がめの豊饒の海をビジュアルに用い、そこから昇る朝日のイメージとともに、「モノ」が創造されるイメージをフォルム化したマークです。富山県が誇る豊かな土壤から生まれる生産品であることを象徴しています。

●お問い合わせ:富山県地域振興課

TEL.076-444-9605





春日の家では通いの他、宿泊、訪問サービスも提供。

ご自宅での生活を、
何より大事に
したいですね。



春日の家
TEL.0766-63-3980
代表 喜多晴樹さん

このまちに住みたい。

私たちが住む市町村の安心を、お届けします。

高岡市

進化する富山型デイサービス。

富山県の西部に位置する高岡市戸出地区。この場所で、新たな富山型デイサービスに取り組むのは喜多晴樹さん。「春日（かすが）の家」と、「おおかみの家」を運営し、地域の特性や一人ひとりのニーズに合った、きめ細かなサービスを提供しています。いずれも、利用者は10人程度、住宅をリフォームした小規模な施設。ここでは、自分の家にいるような気軽な感覚で過ごすことができます。

富山型デイサービスとは、お年寄りや障害者、子どもなど、年齢や障害があるなしに関わらず一緒に過ごせるデイサービスのこと。喜多さんの施設では、おもに介護が必要なお年寄りと障害者が利用しています。

喜多さんは、地域社会とのつながりを大切に、利用者の方が家族や地域の人と過ごす時間を何より重視。自宅での生活を支援する柔軟で質の高いサービスを目指しています。利用者もスタッフも、お互いに多様な価値感を認め合う、進化した「富山型」に、意欲的に取り組んでいます。

富山県の西部に位置する高岡市戸出地区。この場所で、新たな富山型デイサービスに取り組むのは喜多晴樹さん。「春日（かすが）の家」と、「おおかみの家」を運営し、地域の特性や一人ひとりのニーズに合った、きめ細かなサービスを提供しています。いずれも、利用者は10人程度、住宅をリフォームした小規模な施設。ここでは、自分の家にいるような気軽な感覚で過ごすことができます。

富山型デイサービスとは、お年寄りや障害者、子どもなど、年齢や障害があるなしに関わらず一緒に過ごせるデイサービスのこと。喜多さんの施設では、おもに介護が必要なお年寄りと障害者が利用しています。

喜多さんは、地域社会とのつながりを大切に、利用者の方が家族や地域の人と過ごす時間を何より重視。自宅での生活を支援する柔軟で質の高いサービスを目指しています。利用者もスタッフも、お互いに多様な価値感を認め合う、進化した「富山型」に、意欲的に取り組んでいます。

富山県の西部に位置する高岡市戸出地区。この場所で、新たな富山型デイサービスに取り組むのは喜多晴樹さん。「春日（かすが）の家」と、「おおかみの家」を運営し、地域の特性や一人ひとりのニーズに合った、きめ細かなサービスを提供しています。いずれも、利用者は10人程度、住宅をリフォームした小規模な施設。ここでは、自分の家にいるような気軽な感覚で過ごすことができます。

富山型デイサービスとは、お年寄りや障害者、子どもなど、年齢や障害があるなしに関わらず一緒に過ごせるデイサービスのこと。喜多さんの施設では、おもに介護が必要なお年寄りと障害者が利用しています。

喜多さんは、地域社会とのつながりを大切に、利用者の方が家族や地域の人と過ごす時間を何より重視。自宅での生活を支援する柔軟で質の高いサービスを目指しています。利用者もスタッフも、お互いに多様な価値感を認め合う、進化した「富山型」に、意欲的に取り組んでいます。

東京で、富山に逢える。

富山県フェア in 丸の内ハウス (仮称)

4月13日(水)～24日(日) 11:00～28:00 日曜日は23:00まで

[新丸の内ビルディング 7階 丸の内ハウス] 東京都千代田区丸の内1-5-1

フロア内の全飲食店(9店舗)で、ホタルイカやシロエビ等の富山県産食材を使用したオリジナル料理が味わえます。また、回廊式のフロアを楽しく周遊しながら、「とやまを体感できる癒しの空間」が体験できます。皆さまのお越しをお待ちしております。



前回のメニューの一例です



前回のキャンペーンの様子です

きときと富山 観光・物産キャンペーン

7月27日(水)～8月2日(火) 9:30～18:30 初日は11:00から／最終日は16:00まで

[東京都庁 第一本庁舎2階] 東京都新宿区西新宿2-8-1

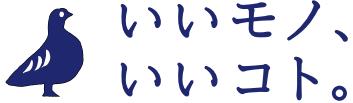
東京都庁「全国観光PRコーナー」にて、富山県の観光・物産キャンペーンを実施します。ポスターやパンフレットによる観光情報の提供や、ます寿し、ほたるいかの沖漬け、かまぼこ、地酒等、富山の特産品の販売を行います。ぜひ、会場へお越しください！



千円銀貨幣 「海越しの立山連峰」 5百円貨幣 「おわら風の盆」

地方自治法施行 60周年記念貨幣発行

この夏、地方自治法施行60周年を記念して富山県の記念貨幣が発行されます。千円銀貨幣「海越しの立山連峰」(彩色カラーコイン・純銀)は6月頃(4月頃申込開始)、5百円貨幣「おわら風の盆」は7月頃に発行予定です。購入方法等は、今後造幣局から発表されます。富山県が全国に誇る風物詩がデザインされた記念貨幣をぜひ入手ください。 造幣局 website: <http://www.mint.go.jp/>



チューリップフェア会場では、国内最多500品種、100万本のチューリップが咲き誇ります。会場には、約100品種の見本花壇があり、球根を注文することができます。

写真左:とやま生まれ「月浪漫」。

写真下:入善町のチューリップ畠。

富山県花卉球根農業協同組合
<http://www.tba.or.jp/>

となみチューリップフェア
<http://www.tulipfair.or.jp/fair/>

可憐な、花のじゅうたんへ。

富山県は日本一のチューリップ球根生産地。約90年前、砺波市でチューリップ栽培が始まり、栽培に適した気候や肥沃な大地、豊富で良質な水に恵まれたことなどから、水田の裏作として、栽培は県下全域へと広がりました。

富山のチューリップの特徴は、その品質の高さと、オリジナル品種など種類が豊富なこと。八重咲き、百合咲き、フリンジ咲き、白、ピンク、黄色、クリーム、色変わり、さらに希少品種など、様々なチューリップ球根が生産・出荷され、全国の人々に愛されています。

今年は「となみチューリップフェア60回記念」として、多彩なイベントが開催されます。中心のフェア会場はもちろん、周辺の生産農家のチューリップ畠「サテライト会場」の可憐な花のじゅうたんも、ぜひお楽しみ下さい。

とやまのチューリップ



プレゼント アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で5名様に、「とやまのチューリップの球根」をプレゼントします。(球根の発送は9月下旬以降になります)